

☆「重症児デイ、私がつくる」 秋田市の看護師、来月開所へ

秋田魁新報電子版 2018年9月16日

＞ 重い障害のある子どもを預かり、医療的ケアをする放課後等デイサービス（放課後デイ）を秋田市で始めようと、市内の看護師八代美千子さん（45）が準備を進めている。勤務先の医療機関を今春退職し、事業所開設のためNPO法人を設立した。「みんながにこっとできる場にしたい」と話し、10月のオープンに向け奔走している。

八代さんが立ち上げようとしているのは、重度の身体障害と知的障害を持つ重症心身障害児（重症児）が対象の放課後デイ。たんの吸引や、胃に穴を開けて栄養を取る胃ろうといった医療的ケアが必要な子どもも受け入れる。こうした子どもの家族は長時間のケアで心身の疲労を蓄積させていることが多いとされる。受け入れ先が不足しているため、自宅にこもりがちな重症児も少なくないという。

3月まで県立医療療育センター（秋田市）に勤めていた八代さんは、看護師としてのキャリア23年のうち16年は障害者看護に関わり、多くの重症児やその家族と接してきた。八代さんは「これまで以上に子どもたちや家族の力になりたい」と考え、医療的ケアが必要な子を安心して預けられる場をつくることを決意。3月に退職した後、事業所の運営主体となるNPO法人「にこっと秋田」を設立した。

県によると、県内で重症児を主な対象とした放課後デイは横手市に一つあるだけで、開設されれば二つ目となる。

事業所は、秋田市御野場の2階建て中古住宅に開設する。子どもたちにとって過ごしやすい空間にしようと、中古住宅を購入してリフォームを施した。スタッフとして、介護福祉士や保育士らの採用を決めている。

「新しいことを始めるには苦勞も多いが、いろんな人に協力してもらっている」と八代さん。「見たり聞いたり触ったり、子どもたちにはさまざまな体験をしてもらいたい。地域の方々にも気軽に遊びに来てもらい、人が集まる拠点にできたらいい」と話す。

計画では、県と秋田市への手続きを経て、10月8日にオープンする。放課後デイは就学している重症児が対象で、学校に送迎車を出す。18歳以上の重症者の日常生活を支える生活介護事業も行う。1日当たりの定員は10人の予定。サービスの提供時間は午前9時～午後5時（日曜日と年末年始を除く）。

問い合わせは、にこっと秋田TEL018・838・6125（平日の午前9時～午後5時）…などと伝えています。